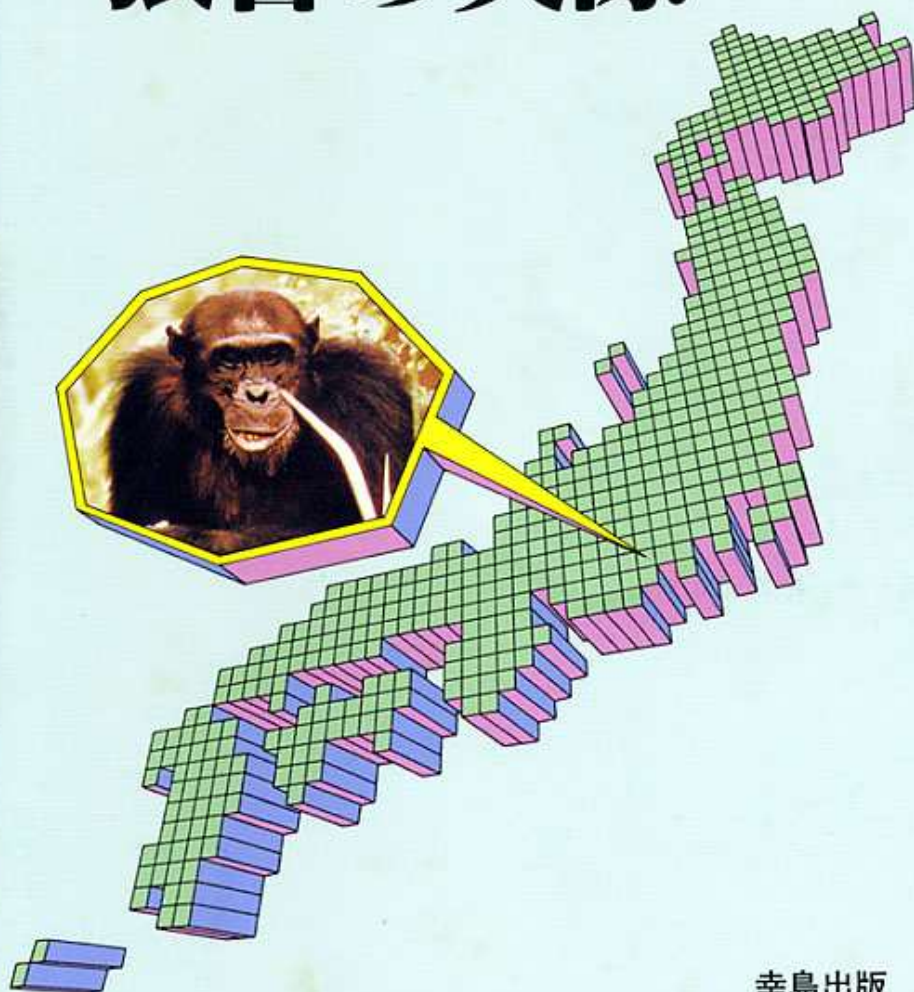


高校生の現代社会科

猿害の実際



幸島出版

表紙写真：ずる賢く危険なチンパンジー

裏表紙写真：親子づれでも油断のできないニホンザル

中扉写真：国際民族学博物館所蔵「鎧を着た猿人」長崎県普賢岳古墳より出土

人間に害のあるサル



ニホンザル 日本にいる猿人の大半はこの種から進化したもので、社会を形成したり、学習効果に応用したりする。



チンパンジー 知能が高く、三輪車に乗るなど、人間のもののまねをするのが特徴。



ローランドゴリラ 狂暴な性格で腕力の強い、危険な猿の一種。



オランウータン 人間に似た風貌をしており育児が困難である。



テナガザル 左右の長い腕を利用し、歩くのが速い。

害のないサル



マンドリル がっしりとした体格や強力な歯を持ち、ヒョウに匹敵する戦闘力を有するが、害はない。



ワオキツネザル 歩行の際に長い尾を立てるなど、変わった習性を持つが、性質はおとなしい。



ネズミキツネザル 総ての時間を樹上で過ごすため、人への害はない。



ヨザル 夜間行動型のサル。見て解かるとおり害はない。



ゴールデンライオンタマリン 美しい体毛を持つ、絶滅寸前の猿。

平成15年3月31日 文部省未提出
平成16年3月31日 改定未提出
平成17年2月1日 印刷
平成17年2月5日 発行
高等学校現代社会科用

高等学校 猿害の実際

榎添浩一／吉村琢次／林 毅
栗林卓男／美津島 豊／堤 正雄



幸島出版

目次

学習のはじめに	6
I 猿害の歴史	
第1章 猿害前史	7
1. 猿人の発見	
2. 猿人の伝播	
3. 豊臣秀吉の登場	
4. 江戸時代の猿人	
第2章 近代の猿人	10
1. 「種の起源」と猿人追放	
2. 「日清戦争」と猿人の陰謀	
第3章 最初の猿害事件	12
1. 新猿人の登場	
2. 「竹下登」事件	
第4章 続発する猿害	14
1. 猿害の顕在化	
2. 猿人社会進出の原因	
第5章 猿害対策の開始	17
1. 平和党と猿害	
2. MP作戦の実施	

猿害事件関係年表	20
----------	----

Ⅱ 猿害対策の実際

第1章 どうして猿人は生まれるのか	21
-------------------	----

第2章 猿人の種別	24
-----------	----

1. 進化度による区分
2. 進化源による区分
3. 退化人間～猿人ではない猿人～

第3章 猿人の見分け方	27
-------------	----

1. 猿の定義
2. 猿の生活
3. 猿の文化

第4章 猿人の見分け方の実践	29
----------------	----

1. 服装、外見による見分け方
2. 態度による見分け方
3. 行動による見分け方
4. 言語による見分け方

学習のまとめ	32
--------	----

反論「猿人にも人権を！」	33
--------------	----

猿人を見つけた時は	34
-----------	----



学習のはじめに

近年、私たちの社会は、科学・技術のめざましい進歩や、産業の発達などによって、都市も農村も急速に変化してきました。これに伴って、私たちの生活もより豊かなものになっています。しかし、一方では、色々と困った問題も起こってきました。公害や自然の破壊、いちじるしい労働人口の減少などによって生まれた猿による害、猿害もその一つです。今では様々な人々がそれぞれの立場で、この猿害の解決に取り組んでいます。

「人間は万物の霊長である」

霊長とは、最もすぐれていて、万物のかしらとなるもの、という意味です。私たちはこの言葉に、今さら疑問を持ちません。

生物学では、霊長類とは、動物界で最も進化の程度の高いものを含み、霊長目の哺乳類の総称ということになっています。具体的には、猿の仲間の事を言います。私たちの遠い祖先はたしかに猿でした。しかし人間は、様々な文明を築き、文化を育ててきました。私たちは全身を長い体毛に覆われてはいませんし、しっぽもありません。また、木の上に住んだり、バナナに喜んだり、ラッキョウの皮むきに熱中したりもしません。今では猿と人間は、まったく違った生き物と言っても良いでしょう。

人間が万物の霊長である限り、かならず猿害を解決することができるはずです。住みよい環境の中で、豊かで幸福な暮らしをしたいという願いは、私たちの誰もが持っています。猿害の問題を解決するためには、私たち一人一人が万物の霊長としての自覚を持ち、正しい猿害の知識を持つことが大切です。ここでは、私たちが祖先から受けついできた長い歴史の中で、つい見過ごされがちだった猿害も含めて、猿害にまつわる多くの問題に目を向けてみることにしましょう。

I 猿害の歴史

第1章 猿害前史

1. 猿人の発見

歴史上、猿人が最初に確認されたのは紀元前270年ごろのことです。古代中国の史書によれば、秦が六国を滅ぼして統一を成し遂げる過程で、ある程度の知性を備えた猿が発見されました。これは旧猿人と思われます。

この猿人たちは、当初は秦の中国統一のための雑用の任や長城建設に用いられ、もてはやされましたが、やがて労働生産性に問題があることが判明しました。また、猿人と交流を持った者は猿人特有の楽観主義に毒され、労働をおこたる傾向が顕著となったため、秦はついに猿人と人間の交流を禁じました。これが猿交禁政策です。

秦は中国統一を成し遂げたものの、猿交禁政策の実施が手遅れであったために国内には楽観主義がはびこり、わずか15年で滅亡してしまいます。この模様は、我が国では6世紀ごろに伝わり、説話の一つとして古事記におさめられています。

2. 猿人の伝播

秦を追われた猿人たちは中国各地を転々と放浪した後、遼東半島に終結、398年、猿帝によって猿の国が興りますが、鮮卑の侵入によって滅ぼされてしまいます(410年)。生き残った猿人たちは、今度はフン族(匈奴)に合流して、ヨーロッパ進攻(西遷)に加わり、以降、猿人たちは西アジアからヨーロッパに至る広大な地域へ伝播して行きます。



サルマン民族の大移動

猿人が再び歴史上に登場するのは、9世紀になります。フン族と共にササン朝ペルシアに侵入し、定住した一部の猿人は、サラセン帝国、ビザンツ帝国などの侵入による激動を生き抜きました。遂にセルジューク・トルコ帝国の時代に、猿人、エテッサ一世は公爵にまで取り立てられて領土を与えられ、エテッサ公国(*1)を興しました(1098年)。

しかしエテッサ公国も長くは続かずには十字軍によって滅ぼされ、東へ逃げのびた猿人は蒙古軍と合流、元寇(文永の役、弘安の役)に加わります。これによって猿人が日本へ大量に渡来することとなりました。

3. 豊臣秀吉の登場

歴史上、日本で最も有名な猿人が豊臣秀吉です。秀吉は、足輕の子として尾張の農村に生まれたと言われていましたが、最近の研究では蒙古と共に日本に渡来した、猿人の子孫であったという説が有力です。

秀吉は16世紀中頃の群雄割拠の戦国時代、戦乱による国内の混乱に乗じて、天下統一の大事業に着手した織田信長にうまく取り入り(*2)、家臣になりました。

信長が本能寺で家臣の明智光秀に襲撃され(本能寺の変)、統一の業なかば



天下をとった猿・豊臣秀吉

にして倒れると、秀吉は明智光秀を山崎の戦で、柴田勝家を賤ヶ岳の戦で滅ぼし、信長の後継者としての地位を獲得します。小牧・長久手の戦、四国平定、九州平定、北条攻め、奥州平定を経て、秀吉はついに全国統一の事業を完成させます。

秀吉はその後、今川氏や北条氏、織田氏らをまねて検地を行ない(太閤検地)、自分の身を守るために刀狩をおこないました。ここまでの事業で安

*1 猿を婉曲に表現する場合に用いられる「エテ公」という隠語の語源となった。

*2 一説には信長が美濃山中で拾った子猿が突然変異したとも言われる。

心してしまった秀吉に、猿人特有の楽観的な面が現れてしまいます。調子によって朝鮮へ侵略軍を送ってしまったのです(朝鮮出兵)。この侵略は朝鮮半島の人々に恨みをかっただけで、何も利益の無いままに終わり、さらにこの意味の無い出兵によって国内は疲弊してしまい、豊臣政権は崩壊の時期を早めてしまったのです。

4. 江戸時代の猿人

豊臣秀吉の死後、かねがね猿を嫌っていた徳川家康は、人間の支配権を奪回するべく、1600年、美濃の関ヶ原において石田三成を筆頭とする猿人擁護派と戦ってこれを破り(関ヶ原の戦)、江戸幕府を成立させました。

家康は1614年冬と1615年夏の2回にわたって豊臣氏、及び猿人擁護派の拠点であった大坂城を攻め、秀吉の子、秀頼を自殺させて猿人勢力を根絶しました(大坂の陣*3)。

江戸幕府は猿人を徹底的に弾圧し、武家諸法度には大名の守るべきことがらとして、参勤交代、大名間の自由通婚の禁止、新規築城の禁止などの他に猿人保護の禁止を定めています。これにそむいた大名に対しては、改易(取り潰し)・減封・転封などの厳罰を課すことになっていました。また、海外からの猿人の流入を防ぐために、厳しい鎖国政策を進めて行きました。町民に対しては、踏絵を実施して猿人擁護派かどうかの検査を行なっています。こうして日本においては、猿人は歴史から姿を消し(*4)、平和な時期が続いたのです。



猿人を見つけ出すための「踏絵」

また中世ヨーロッパ社会においては、猿人の疑いの有るものは法王直属の猿人審問官によって次々と摘発されて裁判にかけら

*3 合戦の前に、わざわざ大坂城の外堀を埋めるといったような愚行が繰り返されたのも猿人の証拠とされている。

*4 5代将軍、綱吉の時、生類あわれみの令が出されて、猿人が一時的に保護された事があった。

れ(サル狩り裁判)、有罪と認められたものは火あぶりなどの残酷な形罰に処せられました。現在の研究によれば、このサル狩り裁判では、単に猿に似ていただけの、全く猿人とは関係のない無実の人たちも多くが犠牲になってしまったということです。

第2章 近代の猿人

1. 「種の起源」と猿人追放

歴史上、再び猿人が注目されたのはダーウィンの「種の起源」が発表された前後の時期になります。

1720年、エテッサ公国の滅亡によって西へ逃れ、地中海のサルジニア島に定住した猿人は、テナガザル系猿人のアメディオ二世を王にいただき、サルジニア王国を建国しました。サルジニア王国は、着々と勢力を拡大して行きますが、この猿人たちが人間から弾圧されずに勢力を拡大して行けたのは、周辺諸国の住民が人類の中でも非常に楽観的な性格の地中海ラテン民族だったために、彼らが猿人だとは気がつかなかったことと、サルジニアが元々は島国であったこと、そして決定的な猿人判定方法が存在していなかったこと(*5)が大きいと言われます。

しかし、オーストリアとの戦争やクリミア戦争への参戦によって、サルジニアは他国から猿人国家の疑いを持たれるようになります。1859年にダーウィンが「種の起源」を発表したことにより、国際社会でのサルジニア=猿人国家の疑いは決定的なものとなりました。こうしてイタリア半島では猿人の駆逐運動が始まり、この2年後にはイタリア王国が成立することになるのです。

2. 日清戦争と猿人の陰謀

猿の国が滅亡して以来、いまだに清国(中国)に留まっている猿人も少なく

* 5 猿人の判定が完全に出来るようになるには、分子生物学や分子遺伝学、生化学などの学問体系が成立し、染色体計測などの技術が完成されるまで待たねばならなかった。

はありませんでした。

1882年より、朝鮮半島の市場支配権を巡って対立が深まっていた日清両国は、1894年8月1日、ついに日清戦争へと突入してしまいます。

実はこの時、猿人たちは日清両国の対立を利用して、遼東半島に猿を再興する計画を持っていました。装備の近代化が進んでおり、猿人の協力もあったために日本軍は朝鮮半島から清国軍を駆逐し、遼東半島を占領、戦争は日本の勝利に終わりました。



漁夫の利 猿人が日・清の対立を利用して、漁夫の利を得ようとしているところを描いたもの。(ヒゴーの風刺画より)

下関条約によって、清国は日本に遼東半島ほかの国土を譲り、補償金を支払うこととなりました。猿人たちは対日協力の見返りとして、日本から遼東半島を譲り受ける手はずになっていましたが、先のサルジニアでの事件で猿害を早くから恐れていたロシア、ドイツ、フランスの三大国が猿人の野望に気付き、日本に対して遼東半島を清国に返還するように迫りました（三国干渉）。日本は当時、このような強国の干渉を拒む力が無く、やむなくこれに応じ、猿人の計画は阻止されたのでした。

この後しばらくの間、猿人の活動は消極的な物となっていましたが、1915年に再び事件が起こります。これより4年前、中国では辛亥革命が起きて、翌年には中華民国が成立しました。しかし革命派の勢力が弱かったために、革命後も政情は安定せず、政権は軍閥の巨頭になでなつた猿人、猿世凱が握っていました。日本政府は猿世凱が猿人であるという秘密を握っていたため、猿世凱を脅迫し、対華二十一ヶ条の要求を提出して強引に認めさせてしまいました。このために中国では激しい排猿・排日運動が起こり、日中関係は円滑さを欠くようになってしまったのでした。この状況は猿世凱の死後も続き、日本に深い禍根を残すことになってしまったのです。

世界的に見れば、この時期に猿人が暗躍していたと思われる事件はこの二つだけで、比較のおだやかな時期であったと言えます。これは中世期における、人類の徹底した猿人弾圧運動の結果、猿人の絶対数が激減したためと見られています。しかし、サルジニア王国の成立や遼東半島をめぐる陰謀に見られるように、この頃から全体的に、旧猿人の知能の高度化が目立つようになってきました(*6)。

第3章 最初の猿害事件

1. 新猿人の登場

またしても猿人が注目され始めたのは、第二次世界大戦以降のことです。戦後社会の復興に腐心していた各国は、先を争うように開発を進め、産業の発展に奔走しました。この結果、産業公害の発生が顕著となってきました。一方では、人類が獲得した新たなエネルギーである核エネルギー(原子力)も様々な問題を生み出し、これらの影響によって、今までの猿人とは異なった猿人が生み出されてしまったのです。これが、現在の猿害を引き起こしている新猿人です。恐ろしいことに、新猿人は旧猿人のような猿知恵ではなく、高度な知能を有していました。また、新猿人の中には外見的に人間と見分けのつかないものさえ出現しました。

これら猿人の数は年々と増加の一途をたどり、猿人は社会へ浸透していき

ました。しかし当時の日本は、かつての日清戦争の時や猿世凱のように国政にしばしば猿人を利用してきたため、これらの猿人をうまく利用すれば害は無いものと信じており、政府も国民も全般的に猿人に対する認識が甘く、猿

猿害事件の例

*6 この頃、ジャワ島や中国で次々と猿人が発見され、すでに猿害を予見していた学者もいた。

人たちの社会進出を黙認してしまう風潮がありました(*7)。事実、戦後の日本経済の高度成長は、猿人の力に負っている部分もありました(*8)。

2. 「竹下登」事件

猿人の人間社会への浸透は、1980年代に顕著となり、80年代後半のバブル景気、及び構造的不況に伴う空前の人手不足によって、一層拍車がかかりました。こうし消費税を導入した竹下登



て遂に最初の大規模な猿害事件が発生します。

以下に示すのは、現在、猿害研究の第一人者として知られる榊添浩一博士による、当時の猿害研究レポートからの抜粋です。

＊

「猿害」とは、80年代のオゾン層破壊によって降り注いだ紫外線によって、甲状腺ホルモンが肥大化し、突然変異によって進化したサル達によって人間社会にもたらされる数々の災厄の事である。

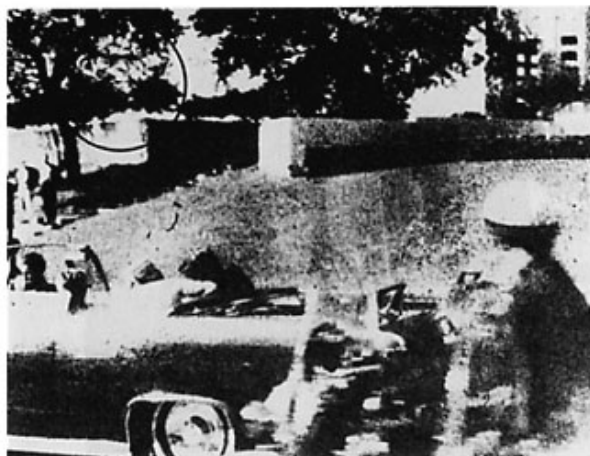
進化したサル達はかなりの知能を有し、また表面的にも人間(特に日本人)とそっくりであった。そして彼らは人間に興味を持ち、密かに人間社会に潜入していったのである。

最初の猿害は1989年に起こった。

田中角栄元首相が飼っていたベットのサルが、ある日いきなり突然変異を起こし、人間並みの知能を持つようになり、自らを「竹下登」と名乗った。

*7 これは豊田秀吉が政権の座についてから以降の日本人の特質だとする民族学者の意見もある。

*8 生産労働に猿人を従事させ、国力の強化に努めたことから、これをかつての中国の秦になぞられて、秦現象と呼ぶ社会生物学者もいる。



ケネディ大統領暗殺事件の現場写真
(円内に猿らしきものが見える)

「竹下登」は主人である田中角栄に毒を盛って病気にさせ、代わりに自分が権力の座についたのである。

しかし賢いとはいってもやはりサルはサルであった。彼の浅はかなサル知恵によって導入した「消費税」は国民の反発を買い、それにより当時の与党であった自民

党は急激に支持を失ってしまったのである。その後の政局の混乱によってもたらされた有形無形の社会への損害は計り知れないものとなった。

＊

ここで規定されているように、猿害とは人間社会に浸透した新猿人によって引き起こされた、現代に特有の害のことを指し、明確な猿人判定手段を持たなかった時代の、旧猿人によって引き起こされたものは猿害とは区別されます(*9)。

人類文明、及び文化に対する挑戦と破壊。これこそが現代猿害の特色なのです。

第4章 続発する猿害

1. 猿害の顕在化

'90年以降、猿害は目立って多くなってきました。「竹下登」事件の次の猿害は1995年に発生した、美浜原発事故です。この事故はチェルノブイリ原発事故に次ぐ規模の大惨事となったものですが、後日の調査によって原発職員の

*9 旧猿人の引き起こした、あるいは関与した陰謀は便宜上「猿謀」と呼ばれ、ジョン・F・ケネディ米大統領の暗殺事件、又はウォーターゲート事件(ニクソン元米大統領の猿人説がささやかれた)であると言われている。いずれにせよ、旧猿人の暗躍は1970年代に終わった。

34%が猿人であることが判明しました。人間そっくりとはいっても、猿には「理性」というものが不足しており、感情が制御できず、ミスが多く、それが大事故を引き起こす原因となっていたのです。この事件は多くの人々に猿害の恐ろしさをうったえるものとなりました。

また現在では、この時期に起こった数々の鉄道事故、航空機事故、ビル火災、出版界の混迷、粗悪ゲームソフト



1995年に起こった
美浜原子力発電所事故

(クソゲー)の氾濫なども猿害であった疑いが持たれており、そのうちの何件かは、明らかに猿害であったことが判明しています。

このように90年代は猿害が顕在化し、平和な市民生活に暗い陰を落とし始めたにもかかわらず、圧倒的な労働力不足によって、政府も企業も猿人の労働従事を黙認せざるを得なかったのです。

2. 猿人社会進出の原因

'90年代初頭、ある環境学者が一つの学説を発表しました。それは公害や環境汚染、劣悪な食生活状況によって、「昭和35年(1960年)以降に生まれた者は40歳で死亡する」という驚くべきものでした。さらにこの学説は、どうすれば40歳で死ななくてすむのか、という点がまったく提示されていなかった



猿人社会進出の要因の一つ環境汚染

全国猿人分布図
(1995年)

人口千人あたり



のです。

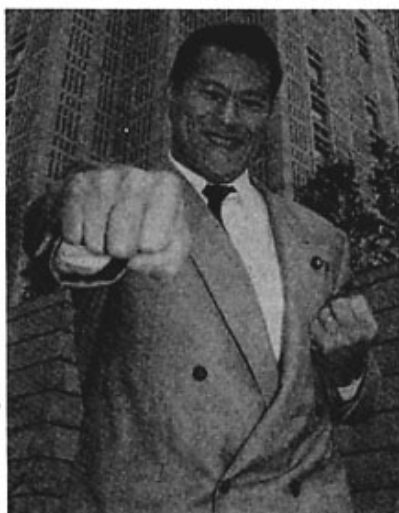
この学説はたちまち広まり、若者の間には「自分たちがそんな環境を作ったわけではないのに」という大人社会に対する不満や、「どうせ40歳までしか生きられないのだ」というあきらめの気持ちが生まれました。こうして当時の若者は、まったく勤労意欲を失い、フリーターと呼ばれる時間給労働者となったり、ベンチャービジネスと称するギャンブルまがいの仕事に魅力を感じたり、自分で会社を設立したりして、その日その日を楽しく暮らせれば良いのだと考えるようになってしまったのです。またノストラダムスの大予言や新興宗教も若者の心の寄りどころとされました。こうして従来を企業を支えていた終身雇用制は完全に崩壊してしまったのです。

企業としては、人手不足を解消するためには猿害が発生するのを承知の上で、猿人の採用も黙認せざるを得ない状態にまで追い込まれてしまったのです。現在、この無責任な学説が猿害の間接的な原因であったとする研究者も少なくありません。

第5章 猿害対策の開始

1. 平和党と猿害

1997年の総選挙において、スポーツ平和党の党首であった猪木寛至は、40歳寿命説によってなげやりになっていた若者たちに「熱く生きよ」と説いて深い感銘を与え、再び若者の勤労意欲を目覚めさせて圧倒的な支持を得ました。その結果、スポーツ平和党は選挙で圧勝し、日本は大統領制を導入することになったのです。



エイブバージを叫ぶ猪木寛至大統領

初代大統領となった猪木は、まず猿人の公職追放(エイブバージ)を行いません。これは「政界のヒヒじい」などと呼ばれて猿人の疑いのある政治家や、猿知恵と思われる政策を実行する上級公務員を解職、解任、もしくは左遷、失脚させて、その代わりに有為な若者を登用したのです。この断固とした、勇気ある追放運動は国民の支持を得ることになりました。

この運動に触発されて、民間企業もまたこれに見習うようになり、翌年には猿害問題特別措置法案が国会で可決されて、実力を伴った猿人の排除が認められるようになりました。

猿害対策は世界的な運動へと発展して行き、猿害問題についての国連会議が開かれましたが、まだまだ猿人を産業



猿害対策をめぐるゆる国会

労働に用いている国も多く、この会議は決裂したまま、再開のめどが立っていません。(*10)

2.MP 作戦の実施

こうして猿害対策は国民の間にも広まり、市民団体による嫌猿権運動なども始まりました。猿人の姿は人間社会から徐々に消え始めていきました。

1999年、政府は翌年に迫った新東京オリンピックを前に、国内の猿の一掃作戦の実施に踏み切ります。この作戦は暗号名で「モンキーパンチ作戦(MP作戦)」と呼ばれ、徹底した実力行使も辞さない強力なものでした。この作戦は大成功をおさめ、多数の猿人が逮捕されたり、国外退去になったり、時には厳しい処罰を受けたりしました。この結果、少なくとも社会の表面上から猿人の姿は消え去ったのでした。

しかし、一部の賢い猿人たちは作戦の実施前後から地下に潜伏し、お猿の学校などを作って人間についての学習を行ない、猿に欠けていた「教養」や「理性」をも身に付けてしまいました。例えば、首都圏近郊で発見されたお猿の学校では、次のような教訓が黒板に書かれていたのが発見されています。



治安維持に出動した自衛隊



MP作戦は多大な効果を上げた

おさるの五訓

- 1.人をやたらにひっかいたりかみついたりしない。

*10 会議は猿人を人間の亜種とみなすか、まったく別の生き物とみなすかをめぐって争われた。

- 2.たんぼやはたけの物をあらさない。
- 3.人をやたらにおこらせたり、けんかしない。とくに目があったとき。
- 4.どうろをわたるときは右をよく見て車に気をつける。とくにさんがくぶ。
- 5.体に気をつける。いしゃがいなから。

(以上、原文表記のまま)

こうした教育を受けた猿人たちは、ほとんど人間と変わらぬまでに進化を遂げてしまい。もはや「賢猿」とも言うべき存在となった猿人と人間を見分けることは、素人や普通の警官には不可能となりました。そこで登場したのが「エイブハンター」と呼ばれる猿専門のハンターで、彼らの仕事は人間社会に潜入した猿人を見つけ出す事なのです。

まだまだ私たち人間と猿害との戦いは終わっていません。むしろ、やっと新しい猿害対策の段階にさしかかったばかりだと言うことができるでしょう。

★終わっていない猿害対策

これまでの歴史を通して、猿害は人類文明に対する重大な挑戦だということが理解できたことと思います。これから将来、平和で猿害のない社会を、そして人類文明を作って行くのは21世紀に生きる私たちの責務なのです。



市民団体による嫌猿権運動



まだまだ終わっていない猿害対策

猿害事件関係年表

紀元前 270	秦の范雎、猿交禁政策を唱える	1904	日露戦争(～1905)
紀元 398	中国において猿、興る	1914	第一次世界大戦(～1918)
410	猿、鮮卑の侵入によって滅亡。猿人、フン族のヨーロッパ侵攻に加わる	1915	日本、対華21ヶ条要求。猿世凱、要求承認。皇帝に推される。反猿・排日運動激化(第三革命)
672	壬申の乱(史上初のサル年の戦乱)	1916	猿世凱、帝制取り消し宣言。猿世凱死去
平安時代	猿楽(散楽)の流行	1933	周口店上人発見
1098	セルジューク・トルコ帝国に定住した猿人、エテッサ公国を興す(⇒「エテ公」の語源)	1941	太平洋戦争
1144	十字軍によりエテッサ公国滅亡	1945	日本降伏
1258	エテッサ公国残党の猿人、蒙古軍と合流。一部猿人、中国へ帰還	1946	昭和天皇、人間宣言
1274	文永の役。蒙古軍と共に猿人、日本来襲	1960	産業公害の顕在化
1281	弘安の役。第二次蒙古軍、猿人日本来襲	1963	米、ケネディ大統領暗殺
1351	中国各地で紅毛の賊の反乱	1967	公害対策基本法制定
1582	本能寺の変	1972	米でウォーターゲート事件
1590	豊臣秀吉、全国統一	1974	原子力船「むつ」初実験の出港(放射能もれる)
1600	関ヶ原の戦い	1976	ロッキード事件発覚。田中角栄失脚
1603	江戸幕府成立	1981	敦賀原発で放射能もれ
1615	大坂夏の陣。豊臣家の滅亡、日本における猿人の衰退	1982	参議院全国区、比例代表制に変わる
1685	生類あわれみの令	1989	竹下登の登場。最初の猿害起る(消費税の導入)。リクルート事件
1720	エテッサ公国の末 アメデオ二世、イタリアのサルジニア島にサルジニア王国を建国	1990	人国管理法改正。バブル経済の崩壊、構造的人手不足顕在化。40歳寿命説流行、若年層の労働拒否観強まる。
1848	サルジニア、オーストリアに宣戦	1991	第一次湾岸戦争、対米90億ドル援助。自民党の支持率、大幅に後退
1855	サルジニア、クリミア戦争に参加	1995	美浜原発事故(職員34%が猿と判明)。猿害顕在化
1859	イタリア統一戦争(サルジニア、フランスの援助の下にオーストリアと戦う)。	1997	スポーツ平和党、総選挙にて圧勝。大統領制を導入。猪木寛至、日本国初大統領になる
1861	「種の起源」発表によりサルジニア王国から猿人追放。イタリア王国成立。	1998	猿人公職追放(エイブバージ)。猿害問題についての国連会議決案。猿害問題特別措置法案、可決
1882	イタリアの海外進出と共に猿人、世界各地へ	1999	政府、MP(モンキーパンチ)作戦を執行
1892	ジャワで直立猿人発見。猿害、予見される	2000	新東京オリンピック開催
1894	日清戦争(～1895)	2001	米、木星調査宇宙船発進

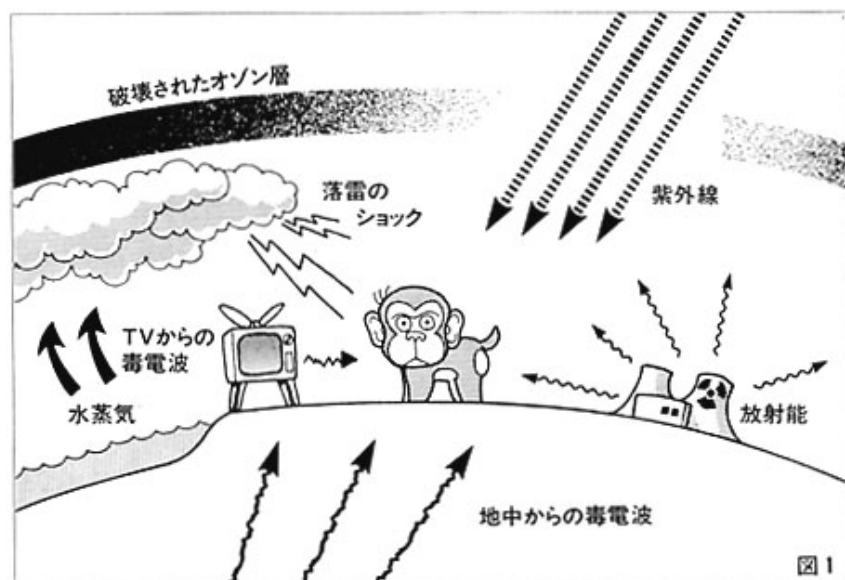
II 猿害対策の実際

第1章 どうして猿人は生まれるのか

私たち人間と猿人との違いを知るためには、猿人がどのように生まれてきたのかを理解する必要があります。

十九世紀に、ダーウィンが『種の起源』の中で唱えた進化論は、二十世紀に入ると実験生物学の成果、化石資料の増大、集団遺伝学の理論などを基礎に進化の正統説(ネオ・ダーウィニズム、進化の総合説*1)へと展開されて行きました。これによれば、私たち人間は長い時間をかけた突然変異と自然淘汰によって、猿から進化したことになります。もちろん一朝一夕に人間に進化したわけではありません。簡単に言ってしまうと「努力する猿」だったのです。

しかし、私たちの遠い祖先が人間への進化の努力をしている間に、今まで



*1 突然変異と自然淘汰によって進化を説明する考え方、思想。突然変異は必ず正か負の淘汰値を持つこと(淘汰万能)、微妙な変化が一様な速度で進むこと、が強調される。

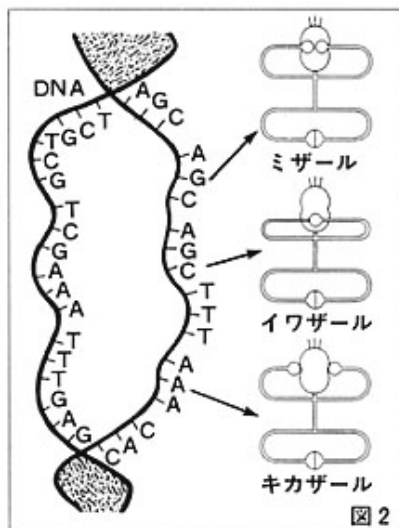


図 2

と同じように木に登って果物を食べ、ノミ取りや毛づくろいをし、不毛なボス争いに興じるという、毎日をおもしろおかしく、なまけて過ごしていた猿もいました。これらの猿の子孫は、現在でもやはり元の猿のままなのです。なぜ、なまけていた猿たちが自然淘汰されずに現在まで生き残ってきたのかは、生物学上の謎とされています。

私たちが一般に猿人と呼んでいる生

き物は、生物学では進化猿人と呼ばれています。進化猿人は突然変異によって発生しますが、その原因となった変異原の違いによって旧猿人と新猿人に大別されます。旧猿人は主に落雷によるショックや気候の急変、地中からの毒電波(強力な磁場)などの自然環境の変化や刺激によって生まれ、新猿人はオゾン層の破壊により降り注いだ紫外線や原発事故などによる放射能、森林の乱伐採や乱開発による生態系の破壊といった変化から生まれます(図1参照)。いずれにしても猿人は分断平衡(区切り平衡説*2)の実例として珍重されています。

次に、ここで遺伝子レベルでの猿人の発生の仕組みを見てみましょう。最近では猿人と人間は外見上では見分けがつきにくくなっていますが、遺伝子を調べる事によって完璧に見分けることが可能だからです。

すべての猿は、プロト・ヒト遺伝子を持っています。この遺伝子は最初、1970年代に発見された、オリバーと名付けられた猿人の細胞から発見されま

*2 1970年代以来、グールドやエルドリッジらが化石のデータから主張している説で、進化では、種はかなりの期間安定して不変(平衡)であり、環境変化などで適応が崩れると、比較的短期間に次の安定状態に移行するというもの。進化とは微小な差異が定常の速度で蓄積するものという正統派の進化観と対比される。

200万年かかった人の進化

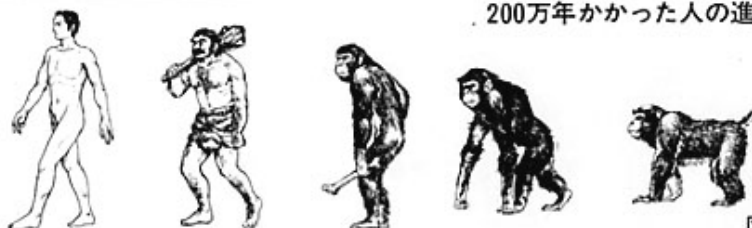


図 3

猿人はわずか一代で発生する



図 4

したが、研究が進むに従って、あらゆる猿の正常細胞からも発見されてきました。猿の細胞内のヒト遺伝子こそ原人、ひいては猿人を形成するものであらうということから、このように名付けられました。

プロト・ヒト遺伝子のDNA(デオキシリボ核酸)とヒト遺伝子のDNAの構造は非常に良く似ていますが、あきらかに異なるのは、プロト・ヒト遺伝子のDNAのヌクレオチド(DNAの構築単位)を構成する塩基、糖、リン酸の成分のそれぞれに、サル型の外見を持ったミザール、イワザール、キカザールという成分が結合していることです(図2参照)。

このプロト・ヒト遺伝子に質的、量的な変化が起きたとき、猿人を作る真の猿人遺伝子となります(活性化)。質的な変化とは、プロト・ヒト遺伝子の遺伝子暗号の一部に何らかの刺激によって脱落が起き(点突然変異)、作られるタンパク質の機能に大きな影響を与えてしまう事です。また量的な変化とは、何らかの刺激によってプロト・ヒト遺伝子のコピー数が増幅していたり、遺伝子の転写が促進されてしまう事です。これらの変化が起きた時、猿の猿人化が起ってしまうのです。

プロト・ヒト遺伝子の変化は初期の段階では非常に不安定で、これは最初

にプロト・ヒト遺伝子が発見された猿人、オリバーによって実証されています。オリバーは研究のために来日しましたが、その来日中、何らかの刺激を受けたために(*3)第二の突然変異を起こして突然変異の影響が消失(サブレクション)してしまい、猿に戻ってしまったのです(オリバー君事件)。

現在、政府や各地方自治体では猿人の早期発見のため、画像診断や遺伝子診断、猿人集団検診を行っていますが、まず、私たち一人一人が自発的に周りの人たちをよく観察し、その行動や仕草から猿人の早期発見につとめることも大切です。

第2章 猿人の種別

猿人がどうして生まれるのかを、生物学的に学習してきたところで、ここでは一般的な猿人の見分け方を学習してみましょう。

1. 進化度による区分

現在、猿人は国民統制局・猿害対策センターが定めた進化度の基準によって3つのクラスに分けられています。

Cクラス猿人

進化度が一番低い猿人です。直立歩行が可能ですが、ほとんど人間には見えないので容易に発見できます。知能が低く、狂暴なので接触する際には十分に注意しましょう。

Bクラス猿人

顔が猿系の骨格を持っています。猿に似た人間や猿顔の人と間違いやすいので判定の際には注意が必要です。人間の言葉も理解でき、知恵も少しあります。行動がやや粗暴



Cクラス猿人



Bクラス猿人



Aクラス猿人

*3 テレビ出演による毒電波の影響とする説、人間との性交渉計画によって興奮し、分泌が盛んになったアドレナリンの影響とする説、遊興中の頭部強打事故による点突然変異の発生とする説などが有る。

な面があり、いわゆる体育会系です。

Aクラス猿人

人間とほとんど見分けがつかず、外見から判断するのは不可能です。また高い知能を持ち、最も危険な猿人と言えます。知能テストで判定するのは難しく、DNA診断などの高度な検査が必要です。



2. 進化源による区分

猿人は進化源である猿の種類によっても区分されています。現在、世界中で約60種類が確認されていますが、ここでは、その中でも最も代表的なものを取り上げて紹介してみましょう。

ニホンザル系

我が国の猿人のほとんどが、このオナガザル科のニホンザル系です。ニホンザル系の特徴は、顔と尻が赤く、尾はほとんど無く、秩序だった優劣関係を持った集団を作りたがる点です。かつては政治家の中に多く見られたようです。また、個体によっては温泉治療を好んだり、頬に食物を納める袋が残っている場合があります。発見の要点は、赤ら顔、一度に食べ物を頬張る、やたらと集団を仕切りたがる、などが上げられます。菜食を基本としますが雑食性で、食べ物の傾向から判断するのは難しいでしょう。これらの点で、視察と称して温泉旅行に出かけたり、料亭懐石料理ばかり食していた政治家の世界は、猿人たちの絶好の隠れみのになったといういきさつがあります。

チンパンジー／ゴリラ系

これらはヒトニザル科に属し、世界中で見られます。特にチンパンジー系は元の猿であった時から、最も人間に近い習性を示していたため、猿人化してから発見が困難です。強いて発見の要点を上げるならば、夜、寝るときに二段ベッドやハンモックなどの高い場所を好む傾向にあり、エスカルゴや

果実、木の実や葉を好んで食するという菜食傾向にある点でしょう。また自分たちのことを「オイラたち」と言ってしまう例も報告されています。ゴリラ系は鼻が横に広く、立派な体格をしています。雄は頭頂部が大きく突き出しており、成長するに従って後頭部の毛が白くなり、シルバーバックと呼ばれます。やはり菜食傾向にあり、タケノコやバナナなどを好んで食べます。

オランウータン／テナガザル系

これらはショウジョウ科に属し、身体は他の猿人と比べると細く、上前肢（腕）が長いのが特徴です。尾はなくて、個体によっては尻にタコがある場合があります。顔が黒味がかって見える場合もありますが、特に肝機能障害の人間と間違えやすいので注意が必要です。ニホンザル系と同様に菜食を基本とした雑食性で、食べ物の傾向から判断するのは難しいと言えます。

3. 退化人間～猿人ではない猿人～

退化人間とは、猿人との不必要な接触によって猿人化してしまった人間の事を言います。その原因として、猿人特有のレトロウイルスによる感染症が上げられていますが、まだはっきりとした事は解っていません。

最近、国民統制局では、退化人間を準猿人に認定しています。我が国では現在までの症例報告は少ないものの、WWF（世界健康委員会）の調べによれば、今後10年の間に、退化人間は世界的に激増する危険性があると指摘されています。

現在、退化人間の治療方法としては化学療法や放射線療法、集学的療法、温熱療法、凍結療法、レーザー療法、ミサイル療法、骨髄移植、手術療法、BRM療法といった方法が試みられていますが、決定的な治療方法はまだ発見されていません。また政府では、各種の治療も空しく猿人化を迎える末期退化人間が、より人間らしい尊厳を持って最期を迎えられるようにするために、ホスピスの設置の検討を始めています。

第3章 猿人の見分け方

猿人は人間と異なって、猿から原人を経ずに直接進化した生き物であることはすでに述べたとおりです。進化の正統説では、獲得形質（前の代の種が訓練や修行などによって身につけた能力や才能）は遺伝しません（*1）が、猿人は猿からの突然変異体であるために、元々の猿であった時の習性を色濃く残している場合があります。

ここでは猿人の理解のために、猿の生態を学習してみましょう。

1. 猿の定義

猿とは、霊長目に属する人類以外の動物の総称で、顔に毛が少なく、手の指が発達し、すぐれた知能を持つ、とされています。我が国で猿、と言った場合には、一般にニホンザルの事を指し、古くから神聖視され、馬の守護神とされてきました。ましら、とも呼び習わされます。猿を神聖視させるようにしたのは、何者かの謀略であったという説もあります。なぜならば江戸時代以降、猿という言葉はあまり良い意味には使われなくなったからです。例えば、「猿まね」、「猿知恵」といったように、小利口な者をのしる際に使われますし、江戸時代には風呂屋にいた遊女、湯女を猿と言いました。また、男性の生殖器をこう呼ぶ地方もあります。

サルの生態行動



胸をたたき大声をだす



簡単な巣を造って眠る



よく木に登る

*1 例えば、プロ野球選手の長嶋一茂は、父親が優秀な元プロ野球選手の長嶋茂雄であるが、彼は遺伝によって努力しなくても優秀な野球選手になれるというわけではない。なぜならば彼の父の野球に対する才能や能力は、自分自身の後天的な訓練によるもの（獲得形質）であるからだ。但し、タレントの高島忠男、寿美花代を両親とする政宏、政伸の兄弟の場合、両親の獲得形質が遺伝したように見えるが、これは誰でも努力さえすれば、彼らの両親ぐらいのタレントにはなれる事を示しているだけであるので、進化の正統説の例外ではないので注意が必要。

2. 猿の生活

猿、と一口に言っても、実に多くの種が存在しています。そこで、我が国に多く見られる猿人の母体であるニホンザルに焦点を絞って、猿の生活を解説します。

一般に考えられているほど、猿は移動せず、一定の場所に滞在する傾向にあります。例えば初夏に、彼らの大好物のクサイチゴが実をつけると、猿たちはその繁みに留まって、クサイチゴの実を腹一杯食べようとします。

猿は最も力の強い雄をリーダー(ボス)とする群を作って生活し、群の秩序は、もっぱら物理的な力関係で決定されます。しかしチンパンジーの場合は、あいさつ、おべっか、食物の分配などの、やや人間的な社会行動で秩序を保っています。

群を作って生活する猿たちの行動の中でも有名なのは、グルーミング(毛づくろい行動)とマウンティング(背乗り行動)です。グルーミングは互いの毛をつくろって親愛を表す行動で、群の秩序を保つのに有効です。これと対をなすのがマウンティングで、群の中でも強い猿が弱い猿の背中に乗り、群の中での順位を確認するものです。

猿の子供は大体、5～8月にかけて生まれ、1ヵ月もするとあたりの様子に興味を示すようになります。子供は母親や友達のすることを見て、食事マナーなどを覚えるようになります。この子供たちは、猿の文化的現象の発展に最も重要な働きをします。猿の新しい行動は、子供の遊びを通して獲得される事が多いからです。

3. 猿の文化

文化はヒトに特有のもので、猿を含めて動物の社会には存在しません。しかしながら、ニホンザルの社会が深く研究される課程で、文化的現象が存在することが確認されました。最も有名な例は九州の幸島(こうじま)の群に見られる、イモ洗い行動です。

1953年、当時1歳半であった若い雄が、イモについた砂を水で洗って食べることを発明しました。この行動は彼の母親と遊び友達に伝わり、若者たちから母親たちへと伝播していったのです。1958年ごろからは伝播の経路が変わり、母親たちから子供たちへと伝わるようになり、イモ洗いは群に急速に広まるようになりました。驚くべきことに、1962年には群の中の実に73%が、この行動を身につけたのです。現在ではイモの他、ほとんどの食べ物を洗ってみるようになり、獲得した知識が有効であることを知ると、それを応用する能力があることを実証しています。この幸島の群は、猿社会の中でも特に優秀で、1959年には水泳をする猿が出現し、多くの猿が水泳の能力を身につけています。

また、長野県志賀高原の地獄谷温泉の猿は、いつのころからか、寒い冬に温泉に入ることを覚えました。これは現在でも彼らの文化的現象として伝わっています。

第4章 猿人の見分け方の実践

猿の習性や文化的現象について学んだところで、ここではそれらの知識を猿人に応用し、実践してみましょう。

1. 服装、外見による見分け方

- 毛深い。
- 顔が赤い。または頬紅が濃い。
- 鼻が横に広くつぶれ気味で、鼻の下が長い。
- 耳が大きい。
- アゴが鼻よりも前に出ており、上唇が薄い。
- 裸に近いが、または活動的な服装を好む。
- 赤い下着をはく。(ニホンザル系猿人に多い)
- 名札をつけたり、マジックインキで下着に名前を書く。



猿の表情のいろいろ

(名前は人間としての証明だから)

○頭髪は雄は五分刈り、スポーツ刈りのような短髪。パンチパーマや、額を剃り込む場合もある。雌はショートカット。

○後頭部の髪を白く脱色。白い部分が大きいほど格が上。(ゴリラ系猿人の雄に多い)

服装、外見による猿人の見分け方

頭髪は雄は五分刈り、スポーツ刈りのような短髪。パンチパーマや、額を剃り込む場合もある。雌はショートカット。

鼻が横に広く、つぶれた口で、鼻の下が長い。

鼻が高い。または鼻筋が浅い。

耳が大きい

アゴが鼻より前に出ており、上唇が薄い。

後頭部の髪を白く脱色。白い部分が大きいほど格が上。(ゴリラ系猿人の雄に多い。)

横に広い、または活動的な服装を好む。

毛深い。

さらた
さるお

赤い下着をはく。(ニホンザル系猿人に多い。)

名札をつけたり、マジックインキで下着に名前を書く。(先前は人間としての証明だから。)

2. 態度による見分け方

○理解できないものを見聞きすると、頭に手をやって首を傾げたり、中指で頭をかく。

○興奮すると拳で胸を激しく叩き、大声をあげる。(ゴリラ系猿人に多い)

○うれしい時、奇声をあげたり、ほえたりする。

○足で器用に物をつかんだり、動かしたりできる。

○歯をむき出して怒る。

○歯をむき出して笑う。

○すぐに反省する。

○犬を嫌う。

○余計なものは見ない。

○余計なことは言わない。

○余計なことは聞かない。

3. 行動による見分け方

○ボスを中心としたグループで行動する。(ニホンザル系猿

人に多い)

- 歩くときは背をかがめ、両手をだらしなくブラブラさせる。
- あいさつをする時、突然背後から近付いて、肩をもむようにする。(マウンティングのなごり)
- やたらと他人の毛に触ったり、つくろったりしたがる。(グルーミングのなごり)
- 木の上などの高い所に登りたがり、手足を器用に使って登る。
- 昼間は長時間、休憩していることがある。
- どこでも簡単な寝床を作る。
- 未知のものに出会うと、一度さわってみてから一目散に逃げて様子をうかがう。
- 果物などを見つけると、自家製の酒を作る。
- 食べ物がたくさん有る場所に留まって、そこから動かない。

4. 言語による見分け方

- 自分よりも位が上の者を「ボス」と呼ぶ。
- 自分のことを「オイラ」と言う。
- 語尾に「キャ」とか「キッ」(または派生語の「キャピ」、「キャイ」)といった語をつけてしまう。
- 感嘆したときや怒ったときに、「ウ(ッ)キー」という語を用いる。
- 言葉のイントネーションに特徴が有る。
- 平仮名を多用する。また、ハートなどの記号(象形文字)を文章に多用する。
- 丸味のある文字を書く。
- 十五画以上の漢字が理解できない。
- たどたどしく早口気味にしゃべる。
- 母音の発音がはっきりしない。

学習のまとめ

これまで学習してきたように、長い歴史の中で、私たちはあまりにも多くの猿害を見過ごしてきてしまいました。猿害は、その時代の政治・経済・社会などの諸条件の中から生まれる、人間の知的生活(=文化)の落とし子であると言えます。逆に、猿害の発生は、私たち人間の文化の進歩を証明するものだと言うこともできます。

私たちは誰もが、清潔で安全で明るい社会で暮らすことを願っています。科学技術の発展や経済成長によって、私たちの社会は、この理想に近付いてきました。しかし一方では、不潔で危険で暗い猿害が起きている現実を目をそむけず、しっかりと認識しておくことが必要です。現代では、目を向けるべき現実の姿は混沌としている面が多いと言えます。これは我が国だけでなく世界に共通の現象ですが、表面的な繁栄ばかりに目をとられず、もっと現実にも目を向ける気構えが無ければ、人間性のある豊かな社会を作っていくことはできません。

私たちの祖先が作り上げてきた文明や文化をうけつぎながら、これらを真に発展させていくためには、社会が豊かで平和であることが、何よりも必要です。歴史は私たちに、多くの人々の協力が、少しずつ困難な課題を解決して、社会を発展させてきたことを教えています。私たちは歴史の歩みをふりかえり、現実を見る目を養って、現代の私たちの社会が抱える、猿害に関連した多くの課題を、私たち自身の手で解決していく決意をかためなければなりません。民主主義社会では、その責任は私たち一人一人が負っているのです。

〔自主学习課題〕

1. 猿害の歴史を、政治・経済・社会・文化の各分野ごとに整理し、猿害の歴史的意義を考えてみよう。
2. 猿人発生の特徴を旧猿人と新猿人に分けてとらえてみよう。さらに、その後の猿人の発生要因を考察し、現代社会が直面する課題に対する認識を深めよう。

反論：「猿人にも人権を！」

～地球浄心教とエドワード・ラミュー師の活動～

広義には、人間と猿は同じ霊長類であり、猿から突然変異したとはいえ、猿人も知能を持つに至った以上、私たち人間と等しく、人間社会においての人権を与えるべきだと主張する人たちもいます。特に、エドワード・ラミュー師を中心とする地球浄心教の活動は有名です。

ラミュー師は、人間も地球生態系の一環として位置付けて考えるのと同様に、猿人も直接的な原因はともかくとして、神の摂理にしたがってこの世に生まれてきた以上、やはり生態系の一環として考えるべきである。という主張を続けてきました。そして、猿人が人間と同等の独自の文化的現象を持つ以上、人類の一種族として扱い、基本的人権を与えるべきであるとも主張しています。この主張は1984年の米大統領予備選挙において、民主党のジェシー・ジャクソン師が提唱した「虹の連合」(*1)というスローガンに匹敵するものとして、猿人保護主義者や一部の先鋭的な生態系・環境保護主義者からの支持を受ける一方、新たな創造説(*2)と見る人も少なくありません。



非暴力主義をよりどころとするラミュー師は、各国の政府が指導する実力行使的な猿害対策を暴力的猿人差別であるととらえ、猿人差別撤廃を勝ち取るための手段は大衆の非暴力直接行動以外にはないとし、猿人の労働ボイコット運動や猿人差別反対行進などを各地で指導して猿人公民法成立のための運動を展開しています。

私たちの社会の大きな課題である猿害対策に、このような反対運動があることもぜひ覚えておきましょう。

- *1 「人種のるつぼ」神話(少数民族の同化・融合が自明のこととされる)に抗し、文化的多元主義の立場から少数民族の幅広い連合を目指すもの。少数派が、それぞれの存在意義を保持しつつ、他者を容認して共存している状態をジャクソン師は「虹」と名付けた。
- *2 進化、ことに人類の進化的起源に反対するキリスト教の一派(ファンダメンタリスト)の主張。1925年の「サル裁判」(スコプス事件)以来、運動が続けられている。神による創造の説も「科学」であり、進化論の「仮説」と同等に学校教育の理科に採用せよという平衡取り扱い法案を主張、米のアーカンソー州では一度は州法に採択されたが、連邦裁判所が違憲とした。

猿人を見つけた時は

国民統制局・猿人対策センター
24時間ホットライン

オ サ ル サ ン
電話 #0303 (局番なし)まで
無くそう猿害、明るい日本

猿人目撃報告書 送付先：〒110 東京都千代田区千代田11-1 国民統制局・猿人対策センター

フリガナ

氏名： 住所：
年齢： 歳 生年月日： TEL： 職業（学校・学年）：

●目撃年月日： 目撃時刻：

●目撃の際、近くに誰いましたか？：a.居ない b.居た（ 人）

●目撃場所：a.市街地 b.住宅地 c.郊外 d.田園 e.山中 f.海辺 g.その他（ ）

●目撃場所の住所：

●個体数：（ 匹） 個体のうちわけ：雄 匹 雌 匹

●形態：a.猿そのものだった b.猿に似ていた
c.猿のような印象を受けた d.その他（ ）

●体毛の色：a.黒 b.茶 c.灰 d.白 e.その他（ ）

●身長：（ cmぐらい） 体重：（ kgぐらい）

●猿人は声を発しましたか？：a.発した b.発しない
何か特徴的な言葉があれば書いてください（ ）

●尻尾、尻ダコなどありましたか？（又、その色、長さ等）

●猿人にどれくらいまで接近しましたか？：（ cm）

●この目撃について、初めて人に告げたのは、いつ、誰に告げましたか？

●目撃状況：他の事項と重複しても構いませんから、目撃した前後の事情・目撃した事柄・貴方と回りの人の行動・この目撃と猿人についての御意見・御感想等を出来るだけ詳しくお書きください。：

●以前にも、この種の猿人を見たことが有りますか？ あれば、いつ・どこで・どんなものを見たかを簡単に書いてください。：

●その他、気付いたこと（臭い、仕草や行動の異常など）があれば、お書きください。

記入年月日： 受付年月日： 報告書記入者：

(改定1998.6)

ニホンザルの生態



ニホンザルの社会

◀グルーミング(毛づくろい行動) 親愛を表わす行動で、群れの秩序を保つのに有効。



▶母と子 ニホンザルの子供は5～8月にかけて生まれ、約1月であたりの様子に興味を示しはじめる。



↑リンゴを洗う イモ洗い行動が有効であることを知った猿は、他の物も洗うようになった。獲得した知識の応用である。



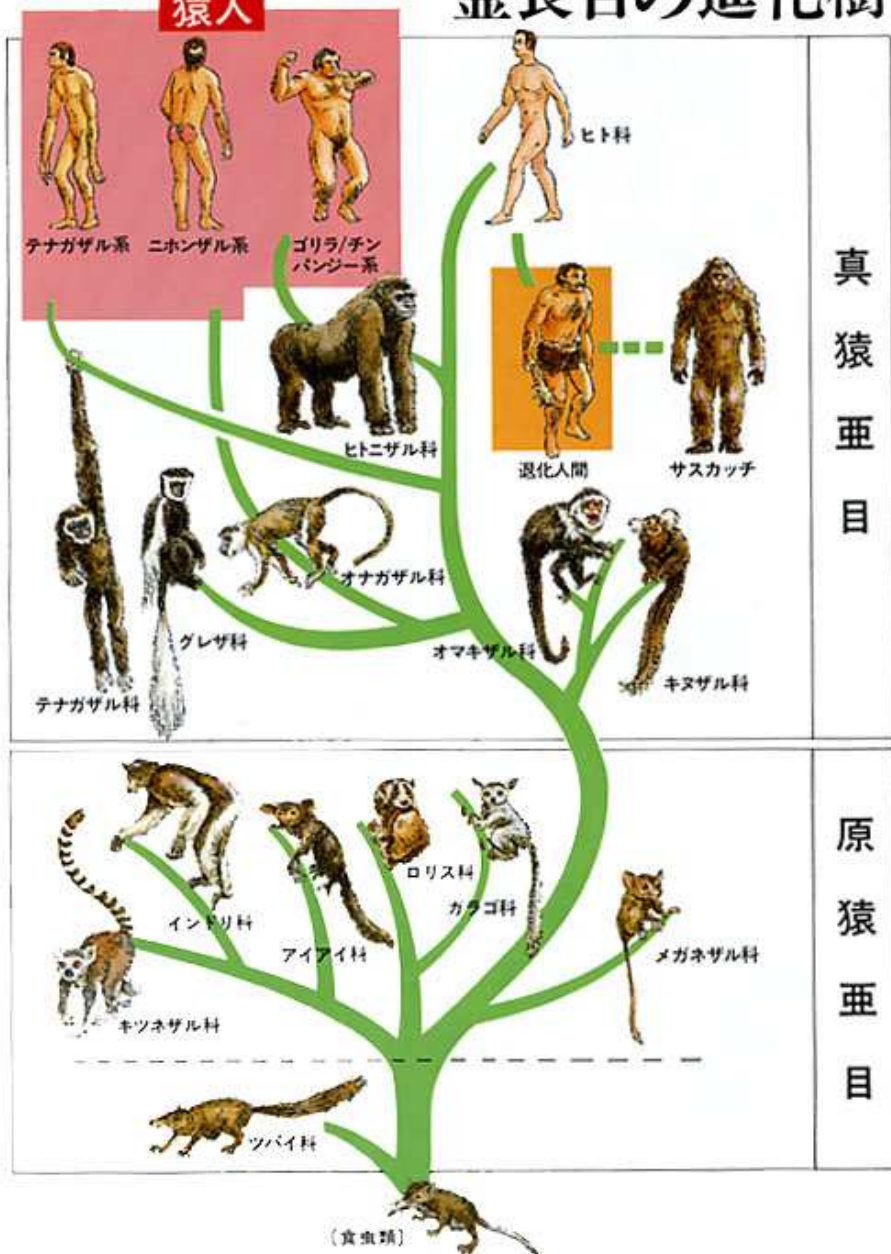
↑温泉に入る 長野県地獄谷温泉のサルは入浴の習性がある。子ザルの遊びが群に伝播し、定着したものである。



↑マウンティング(背乗り行動) 強いものが弱いものに来る、順位を確認する儀式である。

霊長目の進化樹

猿人



- 〔監修〕 国民統制局・猿害対策センター
- 〔著作者〕 榊添 浩一 前東亜大学教授・元猿害対策センター所長
吉村 琢次 和木田大学助教授
林 毅 京都教養大学教授
栗林 卓男 啓蒙大学教授
美津島 豊 聖アンナブリ医科大学教授
堤 正雄 東京農林大学教授

高等学校 猿害の実際

猿害06

707

幸島

平成15年3月31日 文部省未提出
平成16年3月31日 改定未提出
平成17年2月1日 印刷
平成17年2月5日 発行

発行者 株式会社 幸島出版
代表者 芋洗太郎
東京都武蔵野市吉祥寺東本町2701

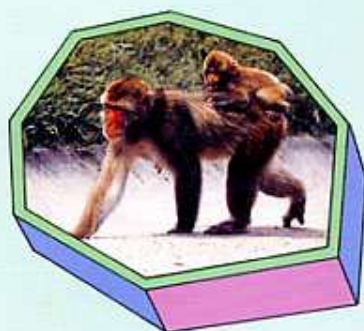
印刷者 紅屋企画株式会社
東京都文京区小石川2-5-5

発行所 株式会社 幸島出版
代表者 芋洗太郎
東京都武蔵野市吉祥寺東本町2701
電話 11(723)1999(代表)
郵便番号 180

著作者 榊添 浩一
吉村 琢次
林 毅
栗林 卓男
美津島 豊
堤 正雄

定価
発行者が認可し広告で告示した定価

発行者の許可なく本書に関する自習書・解説書またはこれに類するものを発行することを禁ずる。



年	組